

【問合せ先】

第五管区海上保安本部

交通部安全対策課

課長 長澤 孝二

電話 078-391-6551（内線 2640）



第五管区海上保安本部

平成 29 年 4 月 24 日

午後 3 時 00 分 発表

Marine Report 2016

～海難隻数過去最少・漁船や高齢者の事故増加～

- 平成 28 年の船舶事故の発生隻数は、前年比 36 隻減の 211 隻で、平成 13 年から開始した現在の統計手法では過去最少
- プレジャーボート及び貨物船の事故隻数が前年比 30 隻減少した一方で漁船は 10 隻増加
- 小型船舶による事故隻数（174 隻）が船舶事故全体の約 8 割を占める
- 船舶事故全体の約 3 割が高齢者、小型船舶の事故も高齢者の占める割合が年々増加
- これらの調査結果を踏まえ、小型船舶の事故減少に向けて、プレジャーボート、漁船の高齢者の船長を対象とする海難防止活動を一層推進します。

1 小型船舶の海難原因

- (1) プレジャーボートの衝突・機関故障
機関故障は、「整備不良」や「老朽衰耗」が主たる要因
衝突は、「見張り不十分」や「操船不適切」が主たる要因
- (2) 漁船の衝突
衝突は、「見張り不十分」や「操船不適切」が主たる要因

2 海難防止のための取組み

小型船舶の海難防止対策に重点を置き、特に以下の啓発活動を一層推進します。

- (1) 常時適切な見張り、適切な操船
- (2) 発航前点検はもちろん、専門業者による機関の定期的な点検
- (3) ライフジャケットの常時着用
- (4) 高齢者を意識した安全啓発

※平成 28 年の海難発生状況の具体的な内容については、資料編「Marine Report 2016」平成 28 年における海難の傾向の分析資料をご参照下さい。

Marine Report 2016

～海難隻数過去最少・漁船や高齢者の事故増加～

平成28年における海難の傾向の分析資料
□資料編

平成29年4月24日
交通部安全対策課

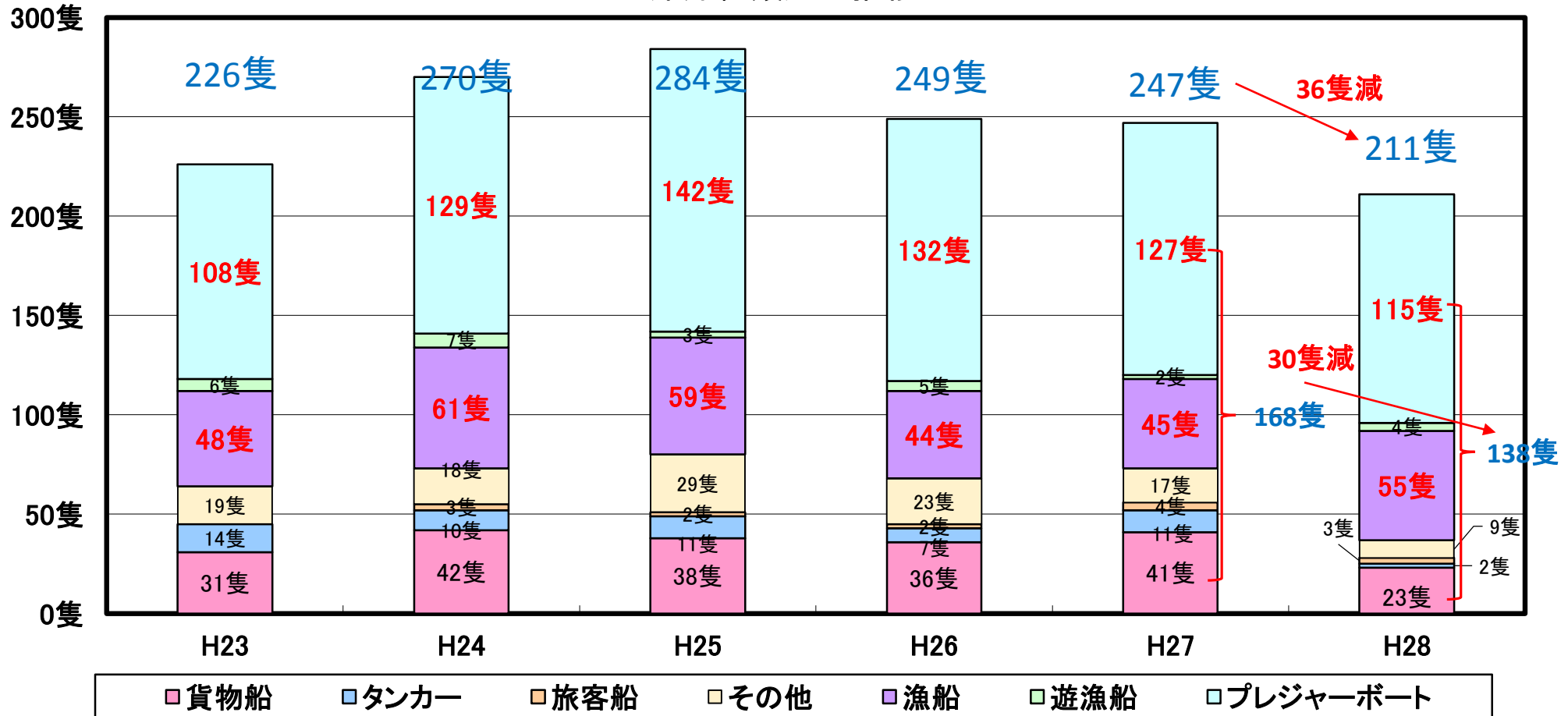
目次

| | |
|-------------------|-----|
| ◆ 平成28年船舶事故傾向分析資料 | 1～8 |
| 1 船舶海難の発生状況 | 1～7 |
| (1) プレジャーボートの事故 | 4～5 |
| (2) 漁船の事故 | 6～7 |
| 2 操船者の年齢の特徴 | 8 |

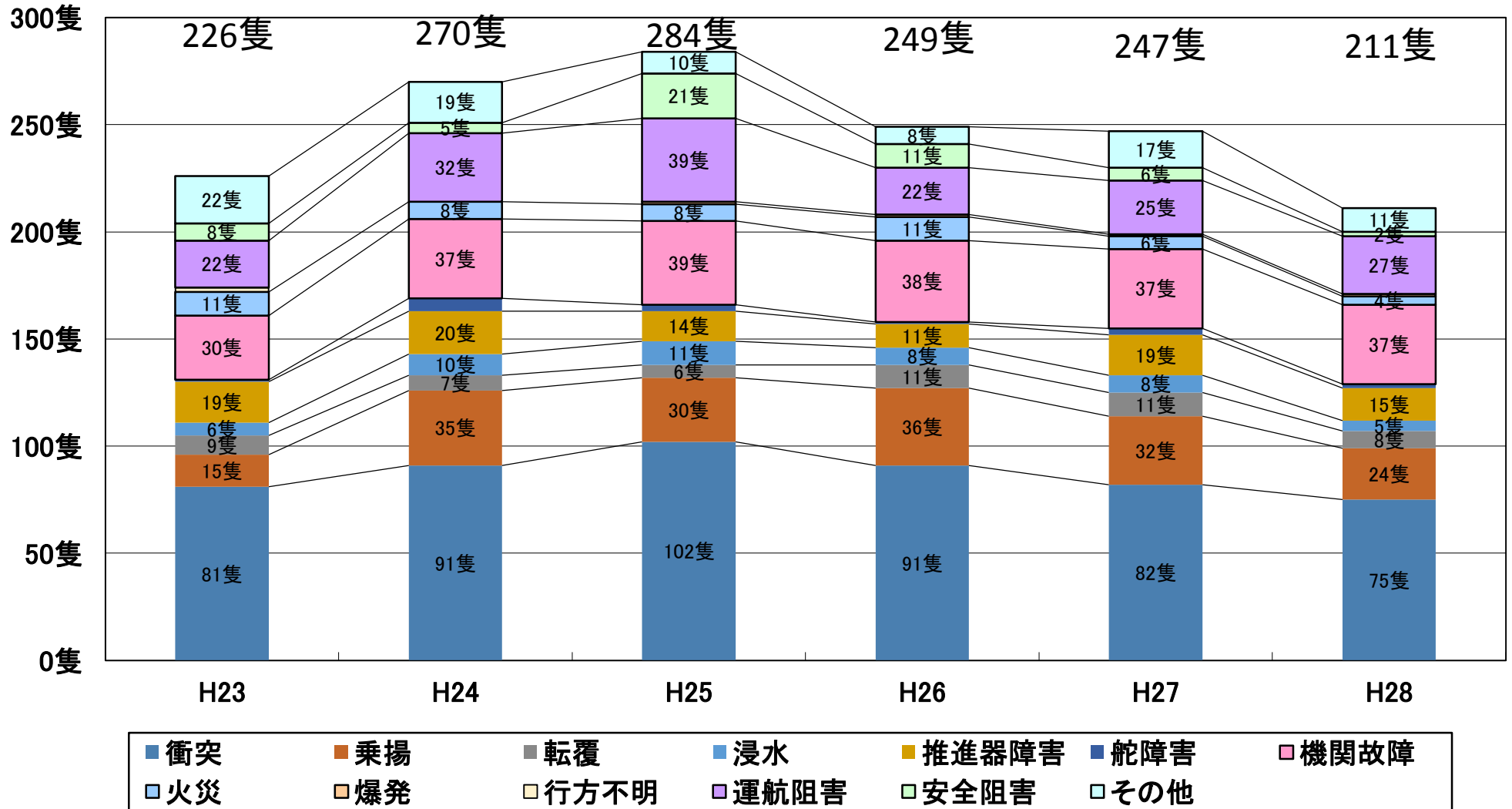
1 船舶海難の発生状況

平成28年の船舶事故は211隻で、対前年比36隻(15%)減少し、平成13年以降最少となっています。船舶種類別の隻数は、プレジャーボート115隻(55%)、漁船55隻(26%)、貨物船23隻(11%)の順となっており、小型船舶(プレジャーボート、漁船)が81%を占めています。

船舶種類別の推移

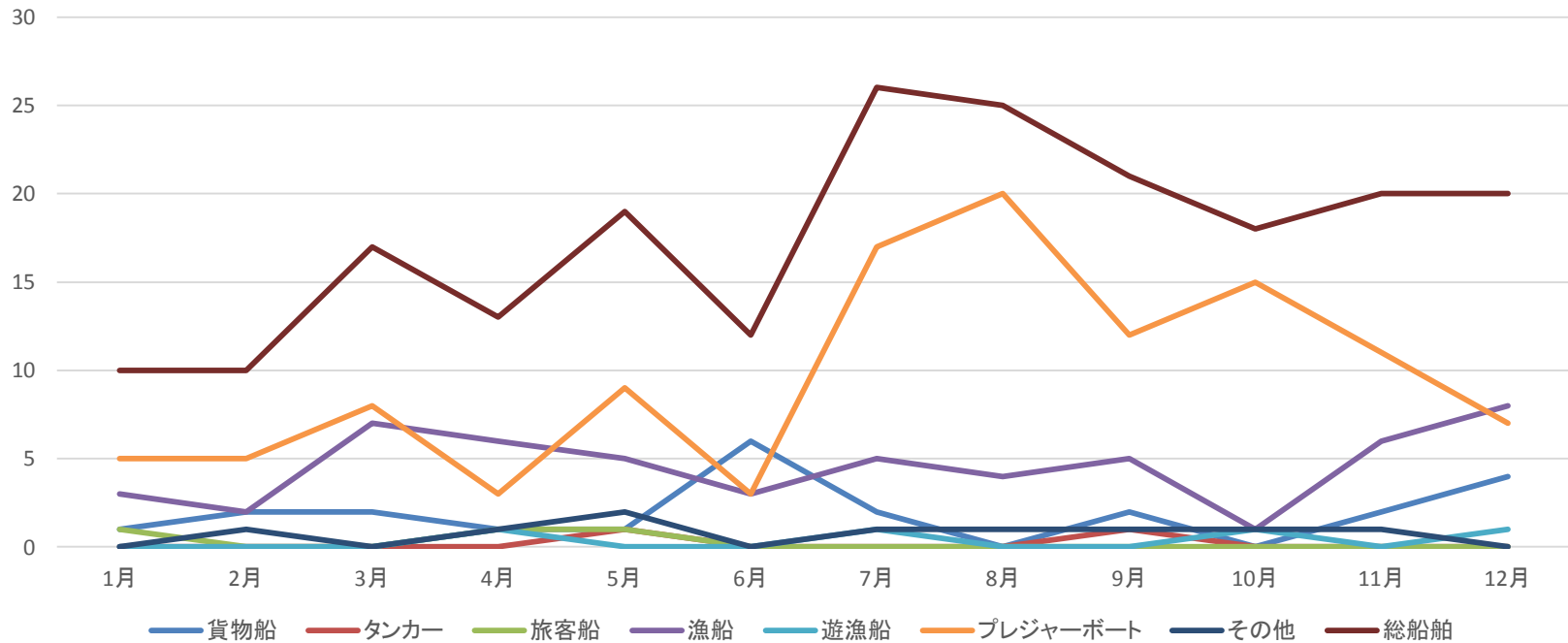


事故種類別の推移



船舶種類別事故の月別推移(H28)

| (隻) | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 年計 |
|----------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|-----|
| 貨物船 | 1 | 2 | 2 | 1 | 1 | 6 | 2 | 0 | 2 | 0 | 2 | 4 | 23 |
| タンカー | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 2 |
| 旅客船 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 |
| 漁船 | 3 | 2 | 7 | 6 | 5 | 3 | 5 | 4 | 5 | 1 | 6 | 8 | 55 |
| 遊漁船 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 4 |
| プレジャーボート | 5 | 5 | 8 | 3 | 9 | 3 | 17 | 20 | 12 | 15 | 11 | 7 | 115 |
| その他 | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 0 | 9 |
| 総船舶 | 10 | 10 | 17 | 13 | 19 | 12 | 26 | 25 | 21 | 18 | 20 | 20 | 211 |

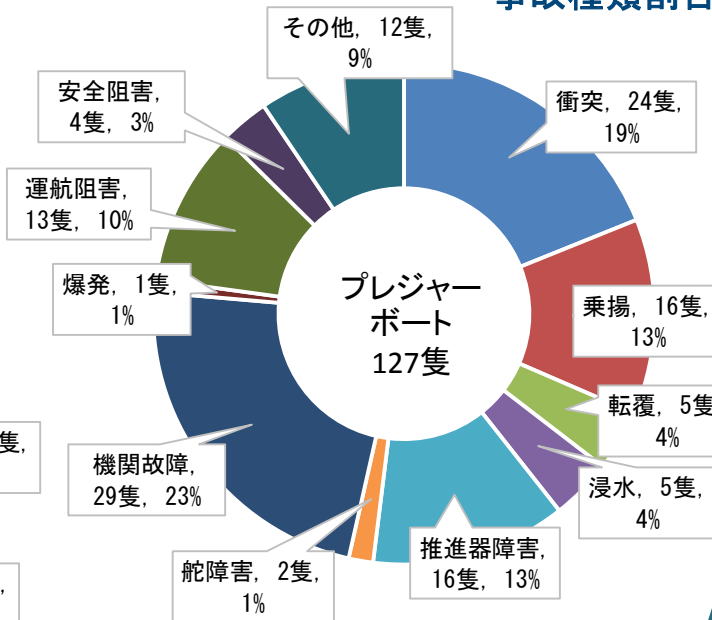


(1) プレジャーボートの事故

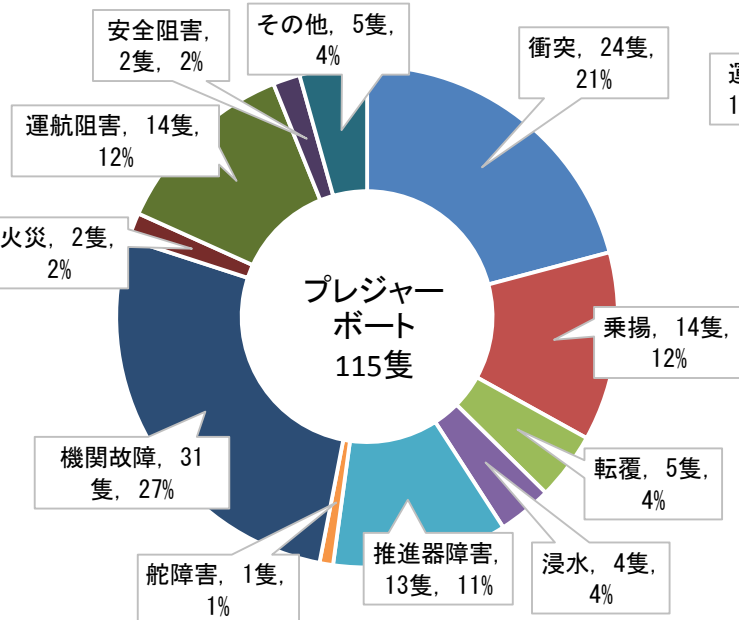
事故種類別の隻数は、機関故障31隻(27%)、衝突24隻(21%)、運航阻害14隻(12%)、乗揚14隻(12%)の順となっています。

過去5年間の事故種類別の隻数においては、機関故障、衝突、運航阻害、乗揚の順となっています。

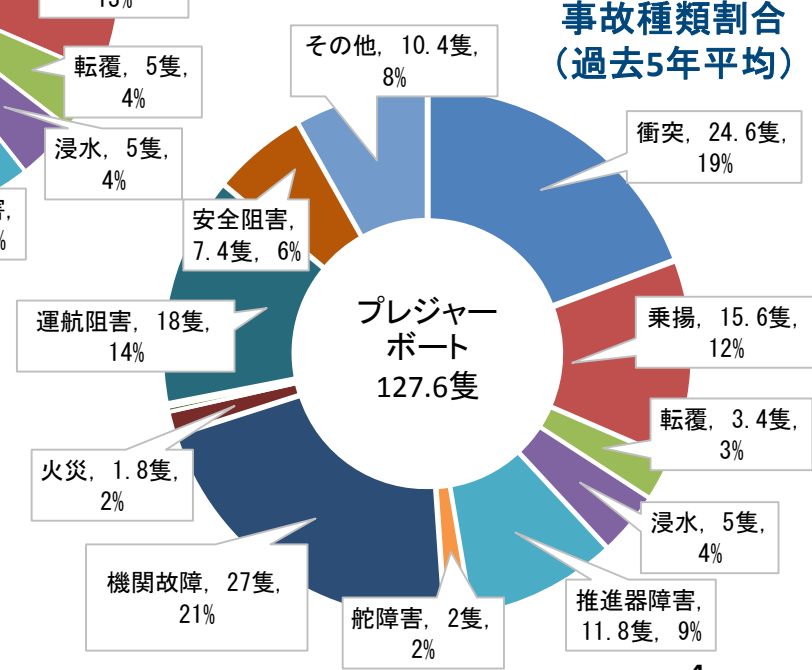
事故種類割合 H27



事故種類割合 H28



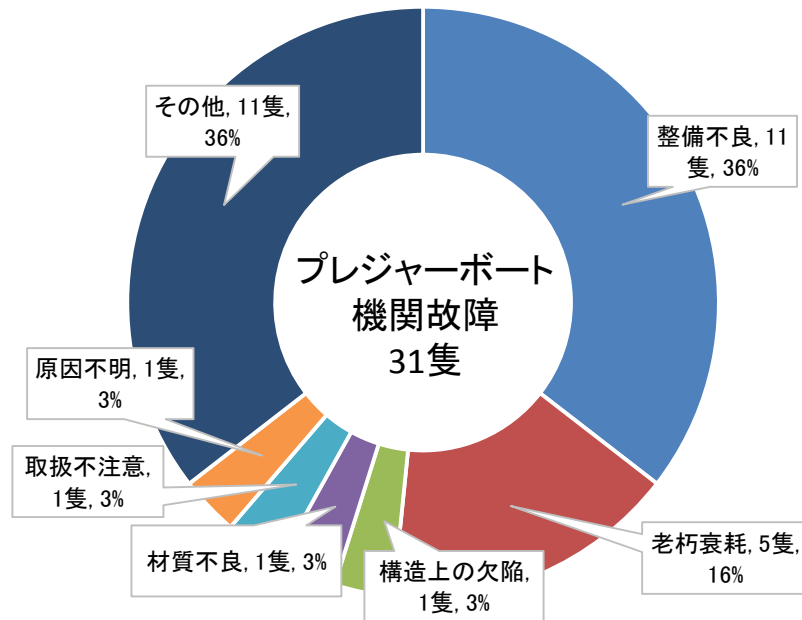
事故種類割合 (過去5年平均)



イ 機関故障

プレジャーボートの機関故障31隻について事故原因別に見ると、整備不良11隻(36%)、老朽衰耗5隻(16%)、構造上の欠陥1隻(3%)等の順となっています。

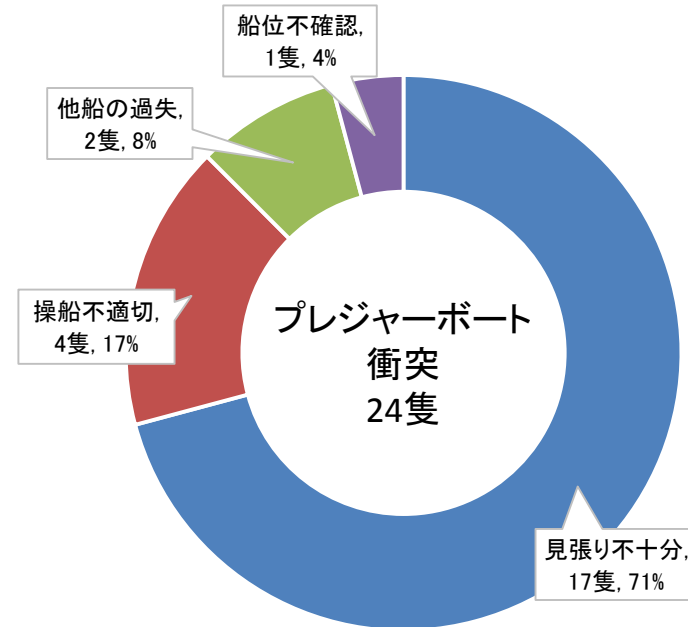
機関故障の原因割合



ロ 衝突

プレジャーボートの衝突事故24隻について事故原因別に見ると、見張り不十分17隻(71%)、操船不適切4隻(17%)、他船の過失2隻(8%)、船位不確認1隻(4%)の順となっています。

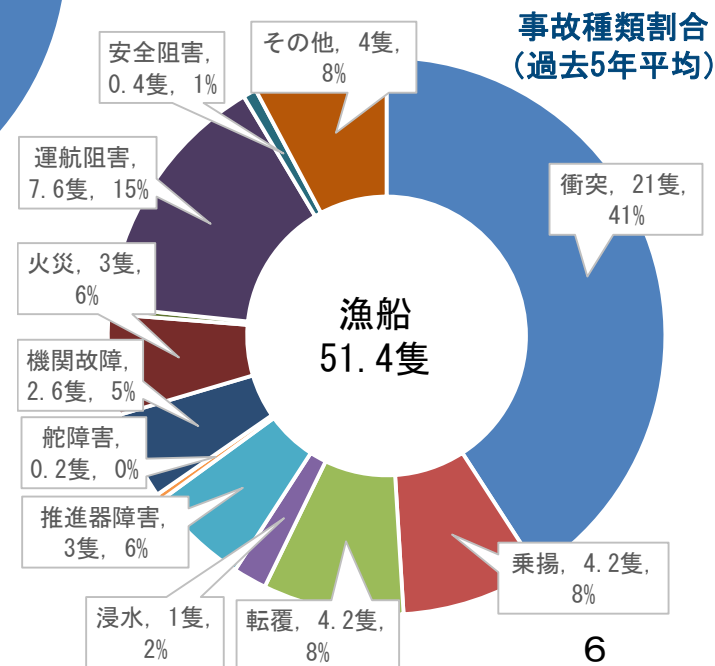
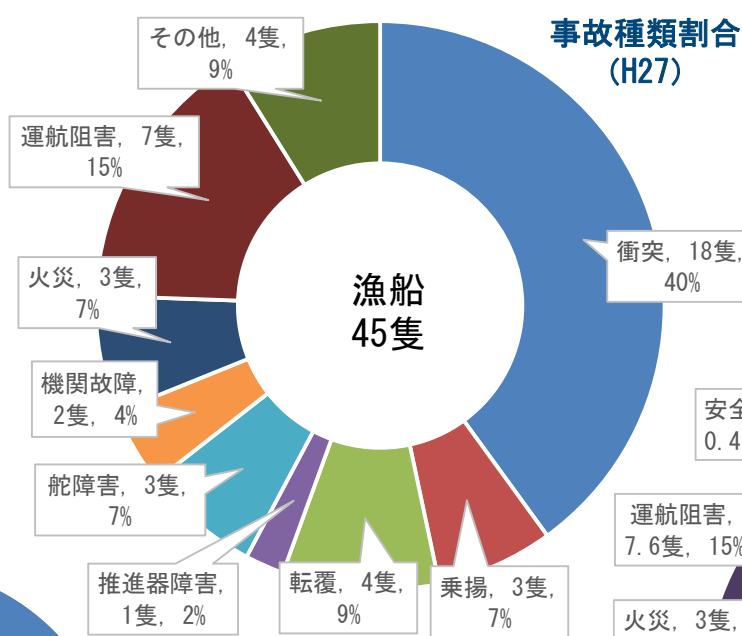
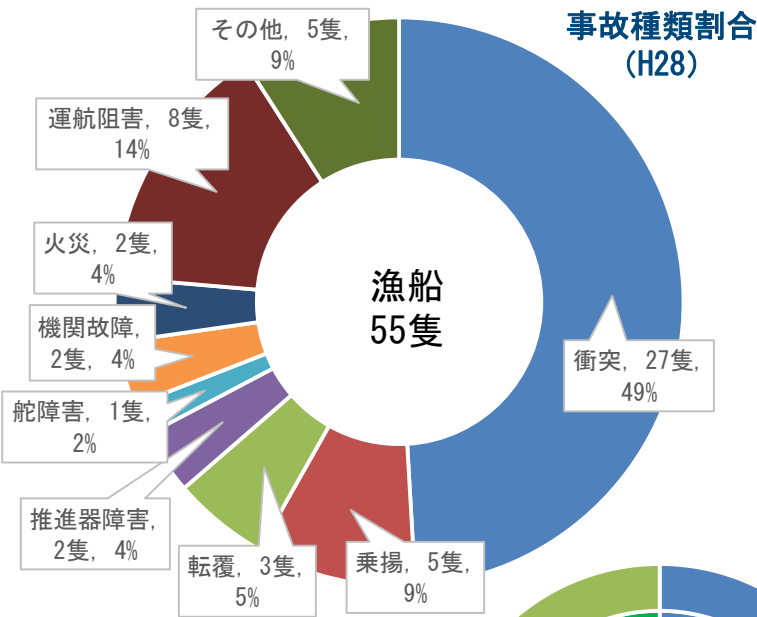
衝突の原因割合



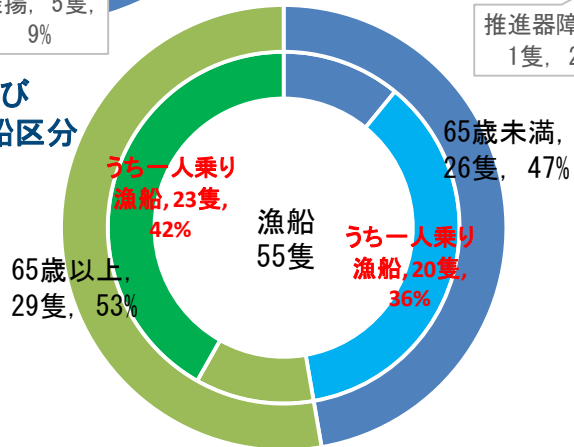
(2) 漁船の事故

事故種類別隻数は、衝突27隻(49%)、運航阻害8隻(14%)、乗揚5隻(9%)、転覆3隻(5%)の順となっています。

漁船の事故55隻のうち65歳以上の高齢者が操船した船舶が29隻(53%)でした。なお、一人乗り漁船が43隻(78%)、うち23隻(42%)が高齢者となっています。

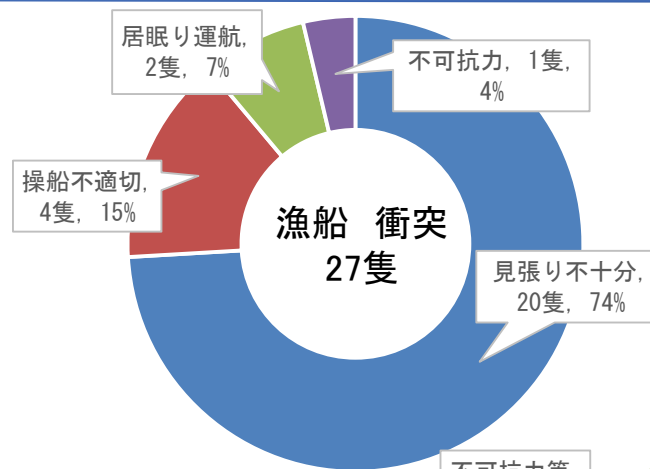


高齢者及び一人乗り漁船区分 (H28)



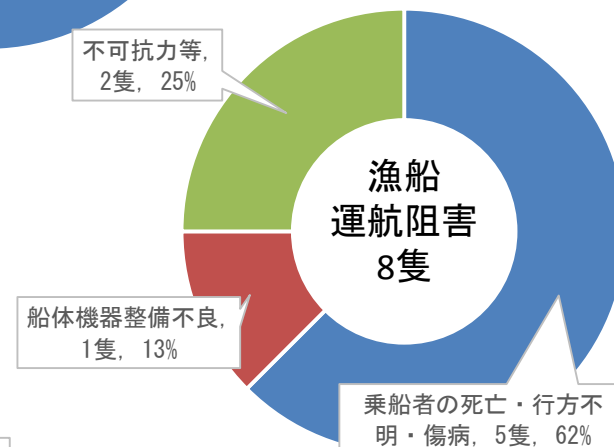
イ 衝突

衝突事故27隻について事故原因別に見ると、見張り不十分20隻(74%)、操船不適切4隻(15%)、居眠り運航2隻(7%)、不可抗力1隻(4%)の順となっています。



ロ 運航阻害

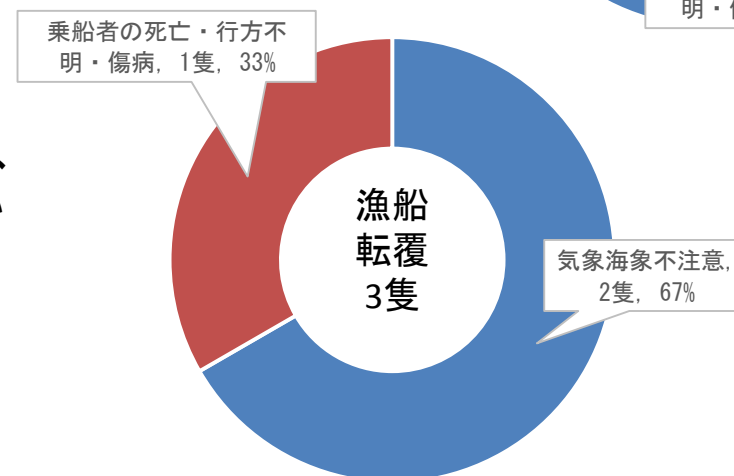
運航阻害8隻について事故原因別に見ると、乗船者の死亡・行方不明・傷病5隻(62%)、不可抗力等2隻(25%)、船体機器整備不良1隻(13%)となっています。



ハ 転覆

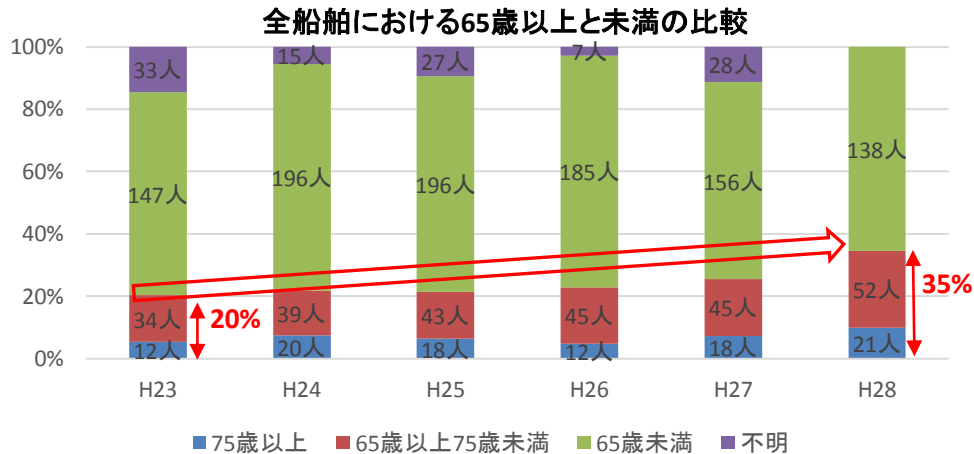
転覆事故3隻全てが、死亡事故となりました。

事故原因別に見ると、気象海象不注意2隻(67%)、乗船者の死亡・行方不明・傷病1隻(33%)となっています。

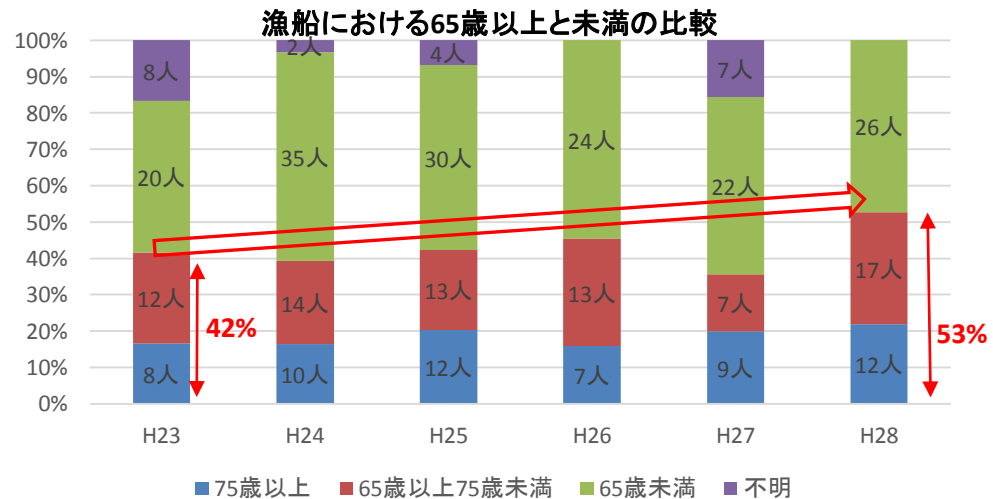


2 操船者の年齢の特徴

■ 65歳以上の高齢者の事故者の割合が増加

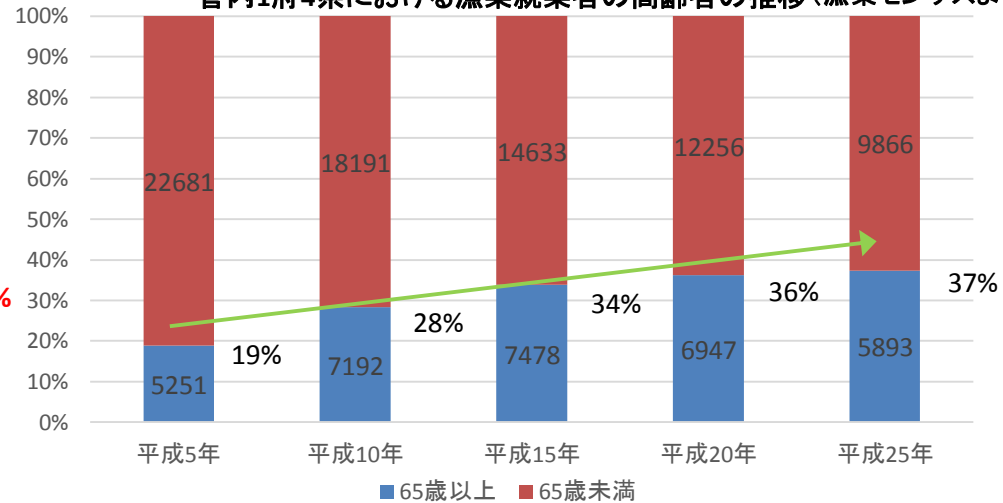


○ 6年間で65歳以上の高齢者の事故者の割合が増加傾向

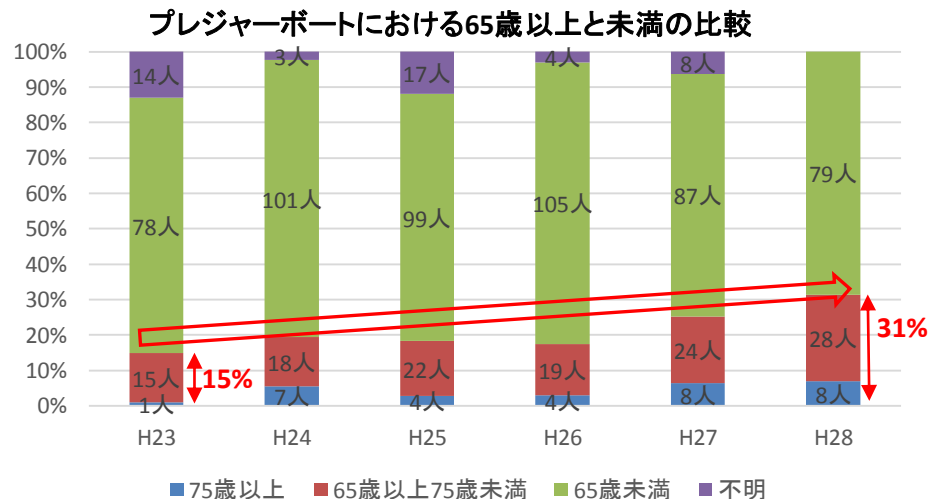


○ 漁船においても高齢者の事故者の割合が増加傾向

管内1府4県における漁業就業者の高齢者の推移（漁業センサスより）



○ 漁業就業者の高齢者の割合は増加傾向



○ プレジャーボートにおいても高齢者の事故者数の割合が増加傾向